

第6学年1組 英語科学習指導案

日 時：平成29年11月1日（水） 第5校時
場 所：多治見市立笠原小学校 第6学年1組教室
指導者：HRT 奥村 真由 ALT Robert Middleton

1 単元名 『未来の町・KASAHARA 開発計画』（国語科）

2 教材観

(1) 題材について

本単元では、コンテンツとして国語科に関する内容を扱う。第6学年の「ようこそ、私たちの町へ」において、事物（町）のよさを人に薦めるために複数の情報内容を編集する活動を行う。人に薦めるという目的で町を見直すことで、児童は改めて自分が暮らす町について考え、「私はたくさんの緑に囲まれたこの笠原町が好きだから、緑を楽しめる公園を紹介したいな。」など、そのよさをとらえ直し、相手によく伝わる表現や語句を工夫してパンフレットに書きまとめる学習を行う。

またその後「未来がよりよくあるために」において、自分たちの未来の町をどんなものにしていきたいかを考え、仲間と意見を交流しながら考えを深めていく学習を行う。

国語科の指導目標の一つに、「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりとしようとする態度を育てる。」とある。

本単元では、児童は自分たちが考える未来の KASAHARA について英語でプレゼンテーションを行う。自分の考えを仲間に伝え、仲間から意見をもらい、さらに考えを深めるこの活動は国語科の目標にもつながる教材であると考えた。

(2) 言語材料について

表現【特徴を伝える】 We (don't) have~ in Kasahara.

【魅力を伝える】 We can (not) (enjoy/ see / buy)~.

【自分の気持ちを伝える】 It's ~. Because I like ~.

【聞き手を巻き込む】 Do you like ~? What do you think?

語彙【特徴を伝える名詞】 場所：park, supermarket, library, restaurant, convenience store, station, gym, pool, amusement park

自然：tree, nature, sea, river, flower

【特徴を伝える形容詞】 食べ物：sweet, spicy, delicious

買う物：cute, rare, convenient, popular

人や町：kind, safe, happy, beautiful, fun, exciting, big, small

(3) 言語活動と指導意図

本単元では、小学校学習指導要領外国語編（平成29年6月）の「話すこと [発表]」の「イ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。」ことを中心に指導する。指導目標と評価規準は以下のとおりである。

【指導目標】

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	質問を織り交ぜて聞き手を話に巻き込むように積極的に話している。	
技能	話題	20年後の笠原町について
	内容	現在の笠原町についての思いや、開発した町の魅力を
	言語材料	We have ~. can などの町の魅力を伝える言語材料を用いて
	表現の方法	相手の理解を助けるために、反対語や例を示して説明を加えながら
程度	4～5文程度の英語で話すことができる。	
言語・文化の知識・理解	笠原町についてどう思うか、また開発した未来の笠原町の魅力について問答する言語材料を正しく理解している。	

【評価規準】 『6 単元指導計画』参照

これらの目標を具現するために、本単元の終末では、以下のようなコミュニケーションを図る活動を行う。

自分たちが考えた20年後の笠原町の魅力を交流し、誰もが住みやすい素敵な町を選ぶ。

3 児童観

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度に関わって

既習表現や知っている表現を用いて、なんとか英語でコミュニケーションしようとする児童が多い。相手の発話に対して“OK.”と反応するだけでなく、“It's nice.”や“I like ~.”と感想や自分の考えを一言付け加えて話すことができる児童が増えてきた。しかし、そこで会話が終わってしまうことが多く、さらに相手に質問をして話を膨らませたり、

話題に巻き込んだりして話すことのできる児童は少数である。

そこで本単元では、自分が考えた未来の笠原町について、質問を織り交ぜて聞き手を話に巻き込むようにして話す態度を育てたいと考えた。そうすることで、より町の魅力を伝えることができたり、一つ的话题から話が広がり新たな情報を得ることができたりするなど、やりとりの面白さを感じることができると期待できる。中間指導で、上手く対話が続いた児童の姿を取り上げながら、どんな質問をして、相手の答えに応じてどのように反応したり、話題を選んで話したりしたのかというところにも焦点をあてながら、魅力を伝えるための話し方の工夫やそのよさについても考え、挑戦できるように指導していく。

(2) 表現の能力に関わって

児童同士の対話、特に即興的なやりとりの場面では、単語で話す児童が多く、文で話すことができる児童にも語順の間違いや不必要な *is* を入れて話してしまうことが少なくない。文で発話した方が伝えたい内容が正確に伝わることを繰り返し指導し、基本となる言語材料を文で話そうとする意識を育てていく。また、*don't* や *can not* と否定の表現を用いることで表現の幅が広がることにも気付かせたい。

さらに本単元では、自分で考えた未来の笠原町について話す際、相手が知らない単語が出てくることが予想される。常に相手意識をもちながら、この表現が伝わらなかつたらどうやって伝えるか、より分かりやすく伝えるためにどう話すかということを考えるように指導していく。

(3) 言語や文化に関する知識・理解に関わって

児童は、5月の単元「シークレットアルバムをつくろう」において、*I have a dog.* というように、自分が持っているものについて *have* を用いて表現した。本単元では、*We have a gym in Kasahara.* というように、町にあるものも *have* を用いれば表現でき、*in* の後に入れる場所を変えることで様々な場所にあるものを説明できることをつかませる。そして、町にあるものに加えて、既習の *can* を用いてその町でできることを合わせれば、その場所の魅力を伝えられることにも気付かせたい。このように、既習の表現を想起させたり、新しい表現についても単元の中で繰り返し使用させたりしながら、言語材料の理解と定着を確実なものにしていく。

4 指導観

(1) 「聞く」「話す」必然性を生む問題解決的な活動について

本単元では、同じ笠原町に住む仲間の町に対する思いを伝え合う活動を行う。住んでいる場所、趣味、生活スタイルの違いなどから、笠原町に対する思いは様々であり、共感できることや、伝え合うことで得られる新たな発見もあると考えられる。仲間が考える笠原町のよさや改善点をヒントにして、「未来の笠原町」にあつたらいいなと思うものをペアで考える。そのため、仲間の笠原町に対する思いを聞く必然性が高まる。終末では、ペアで自由に考えた未来の笠原町の魅力について紹介し合う活動を行う。仲間が考えた町の魅力を聞き、「だれもが住みたくなる町」という視点で素敵な町を選ぶため、どの説明内容がより魅力的か聞き比べながら主体的に活動に取り組めると考える。それと同時に、自分たちが考えた未来の町を選んでもらいたいという思いから、魅力を伝えるために質問して聞き手を話に泣き込みながら話そうとする態度にもつながると期待できる。

(2) 伝え合う内容について

ウ 他教科・領域の理解を広めたり深めたりすることのできる情報

自分たちが住む笠原町を扱う。第6学年国語科「ようこそ、私たちの町へ」の単元では、笠原町のよさを伝えるパンフレットを作った。取り上げる題材や、伝えたい思いやよさについて考えを出し合う中で、子どもたちが毎日生活する笠原町に対して「もっとこうだったらいいのに」という思いをつぶやく児童も見られた。そこで、国語科の学習で考えた笠原町のよさに加え、笠原町にあつたらいいなと思うものについても交流を行うことで、笠原町に対する理解を深めることにつながると考える。現在の笠原町についての思いから未来の笠原町を開発し、仲間と交流する活動においては、自分の考えを聞いた学級の仲間や中学生からの意見をもらうことで、未来の町についてより多面的に考えるきっかけとなる。

(3) 定着を図るための手立てについて

繰り返し同じ表現を使って活動することで、表現の定着を図ることができると考える。第1時では、本単元の終末の対話を *ALT* や *JTE* が示すことで、基本となる言語材料に触れることができるようにした。第2・3時で現在の笠原町について自分の考えを伝え合い、終末では同じ言語材料を用いて自分で考えた未来の笠原町の魅力を仲間と交流する活動を設定した。単位時間の中でも、伝えたい内容について相手を替えながら何度も繰り返して交流することで、使いながら言語材料に慣れ、定着を図ることができるようにした。また、毎時間の最初に帯活動として *Small Talk* を位置付け、既習の表現を想起してやりとりする場を設ける。本単元では、既習表現や定着をねらう表現を用いて対話できる笠原小学校や笠原町を話題に *Small Talk* を行う。コミュニケーション活動中には、定着が不十分な児童に *HRT* や *ALT* が寄り添い、適切な英語表現を示したり、学級全体の定着が不十分であれば中間の高め合いの場を活用し、再度定着を図ったりしていきたい。さらに、毎時間の終了時にはチェックタイムを位置付けた。その時間に扱った言語材料を身に付けることができたかを児童自身が確認できるように、ペアでその時間の話題について対話することで確認し合うようにする。

5 小中の接続について

(1) 題材について

New Crown Book 2 Lesson 4 “Enjoy Sushi” で自分の好きな場所を扱う。

(2) 言語材料について

New Crown Book 1 Lesson 7 “Sports for Everyone” で、助動詞 *can* について指導する。

(3) 活動のタイプについて

New Crown Book 1 Lesson 3 “I like soccer” で、*Show & Tell* 形式で活動する。

第6学年 10・11月「未来の町・KASAHARA 開発計画」(国語科) 単元指導計画【全8時間】 多治見市立笠原小学校

過去の指導との関連 【題材について】 関連する過去の指導なし 【言語材料について】 5年1・2月「未来へ提案～こんな車、どうですか?～」で This car has (). について指導する。 【活動のタイプについて】 6年6月「みんなでやろう体づくり運動」で Show & Tell 形式で活動する。	中心となる指導事項 話すこと〔発表〕ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。	本単元の指導目標 コミュニケーションへの関心・意欲・態度 質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。	基本となる言語材料 What do you think of Kasahara? We (don't) have (a big swimming pool). We can (not) (enjoy / see / buy) ~. What do you think? It's~. Because ~.	今後の指導への発展 【題材について】 関連する今後の指導なし 【言語材料について】 6年3月「中学校でどんなところ」で What do you think about ()? について指導する。 【活動のタイプについて】 6年11・12月「どこへ行きたい～世界編～」で Show & Tell 形式で活動する。
	題材と伝え合う内容 現在の笠原町のよいところや問題点、20年後にこうなっていてほしい笠原町	技能 話題 20年後の笠原町について 内容 現在の笠原町についての思いや、開発した町の魅力を We have ~や can などの町の魅力を伝える言語材料を用いて 言語材料 表現の方法 相手が理解を助けるために、反対語や例を示して説明を加えながら 程度 4～5文程度で話すことができる。	言語・文化の知識・理解 笠原町についてどう思うか、また開発した未来の笠原町の魅力について問答する言語材料を理解している。	
終末の活動の工夫 (Show & Tell 形式) ・現在の笠原町のよいところや改善点を考え、自分たちが大人になる20年後にどんな笠原町になっていたかより住みやすいのかを考え、プレゼンする。自分たちが住んでいる身近な笠原町が題材であるため意欲的に取り組めると考える。				

本単元の評価規準		【外国語表現の能力】		【外国語理解の能力】		【言語や文化に関する知識・理解】	
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 言語活動への取組：質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。		正確さ： 基本となる言語材料を用いて、現在の笠原町についての思いや、開発した未来の町の魅力について正しく問答することができる。		正確さ：		言語についての知識： 笠原町についてどう思うか、また開発した未来の町の魅力について問答する言語材料を正しく理解している。	
コミュニケーションの継続：		適切さ： 相手の理解を助けるために、反対語や例を示して説明を加えることができる。		適切さ：		文化についての理解：	

本単元の指導の概要

【導入】 第1時 ねらい： ALT や JTE が住んでいる町について、よいところや改善点、また先生たちが考えた未来の町開発計画を聞く活動を通して、本単元のイメージをもつとともに、話される内容を正しく聞き取ることができる。 課題 ALT と JTE の先生の未来の町開発計画を知ろう。 活動の概要 ・ALT と JTE の町についてクイズに挑戦する。 ・ALT の先生の町のよいところや改善点、未来の町のプランについて話を聞き取る。 ・聞き取ったことをワークシートにまとめる。 ・JTE の先生の町についても同じように聞き取る。 評価規準 本時 指導面しな	【中盤】 第2・3時 ねらい： 笠原町のよいところやあったらいいなと思うものについて交流する活動を通して、基本となる言語材料を用いて、笠原町についての思いを正しく話すことができる。 課題 笠原町のよいところやあったらいいなと思うものを交流し、未来の町を考えるヒントをつかもう。 活動の概要 ・Small Talk 「笠原町の私の私のお気に入りの場所」 ・交流前半 1対1の対話で未来の町をプレゼンし合う。 ・中間指導 ・交流後半 (第6時は3つのグループを第7時は4つのグループをめぐりに) ・チャレンジクイズを行う。 評価規準 ・質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。(関心・取組) ・相手が理解しにくい時に反対語や例を示して説明を加えることができる。(表現・適切さ) ・町についての思いや、開発した町の魅力について問答する言語材料を理解している。(言語・知識)	【終末】 第4時 ねらい： 20年後の笠原町にあるといいなと思うものとその理由を交流する活動を通して、基本となる言語材料を用いて笠原町についての思いを正しく話すことができる。 課題 未来の笠原町にあるといいなと思うものとその理由を交流し、未来の町計画を進めよう。 活動の概要 ・Small Talk 「笠原町の改善点」 ・笠原町の改善点についてペアで交流する。 ・中間指導 英語表現と分からないことについて質問して理解することについてレベルアップをはかる。 ・交流後半 ・これまでの交流で笠原の町について考えたことをもとに、グループごとに未来の町開発を始める。 ・チェックタイムをペアで行う。 評価規準 ・基本となる言語材料を用いて笠原町についての思いを正しく話すことができる。(表現・正確さ)	第5時 ねらい： 自分たちが考える未来の KASAHARA のプレゼンを準備する活動を通して、質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。 課題 聞き手を巻き込むように話す工夫をしよう。 活動の概要 ・Small Talk 「笠原小の改善点」 ・HRT の町について、2種類のプレゼン (聞き手を巻き込みながら話しているものとそうでないもの) を聞き、自分たちのプレゼンに取り入れられることを考える。 ・グループごとに、より魅力的なプレゼンを目指して練習する。 ・開発した町の名前をポスターに単語で書く。 評価規準 ・質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。(関心・取組)	第6・7時 ねらい： 自分たちが考える未来の KASAHARA について交流し、誰もが住みやすい素敵な町を選ぶ活動を通して、町についての思いや、開発した町の魅力について問答する言語材料を正しく理解するとともに、質問を織り交ぜて聞き手を話に巻き込むように話したり、相手の理解を助けるために、反対語や例を示して説明を加えたりすることができる。 課題 未来の KASAHARA を交流し、誰もが住みやすいすてきな町をつくらう。 活動の概要 ・Small Talk 「自己紹介～相手に質問しながら」 ・交流前半 1対1の対話で未来の町についてプレゼンし、中学生からコメントやアドバイスをもらう。また、中学生からの提案を聞き、よいと思ったら自分の町に取り入れる。 ・中間指導 ・交流後半 中間指導で学んだことを後半の活動に生かす。 評価規準 ・質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。(関心・取組) ・相手が理解しにくい時に反対語や例を示して説明を加えることができる。(表現・適切さ)	第8時 ねらい： 自分たちが考える未来の KASAHARA について中学生と交流し、誰もが住みやすい素敵な町を完成させる活動を通して、質問を織り交ぜて聞き手を話に巻き込むように話したり、相手の理解を助けるために、反対語や例を示して説明を加えたりすることができる。 課題 未来の KASAHARA を交流し、誰もが住みやすいすてきな町をつくらう。 活動の概要 ・Small Talk 「自己紹介～相手に質問しながら」 ・交流前半 1対1の対話で未来の町についてプレゼンし、中学生からコメントやアドバイスをもらう。また、中学生からの提案を聞き、よいと思ったら自分の町に取り入れる。 ・中間指導 ・交流後半 中間指導で学んだことを後半の活動に生かす。 評価規準 ・質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。(関心・取組) ・相手が理解しにくい時に反対語や例を示して説明を加えることができる。(表現・適切さ)
---	---	--	---	---	---

- 7 本時のねらい 笠原町にあったらいいなものについて交流する活動を通して、基本となる言語材料を用いて、笠原町についての思いを正しく話すことができる。
 8 本時の展開 (3/8)

時間	児童の学習活動	指導・援助(○)と留意点(・)		補助教材等						
		HRT	ALT							
1	Greeting あいさつをする。									
5	Small Talk ○“笠原町のよいところ”についてペアで対話する。(1分×2回)	○苦手意識のある児童に寄り添い、質問のしかたを指導したり、相手の話に反応して相づちのうちかたを見せたりしてコミュニケーションを継続させる指導をする。	○二回目の対話の前に、英語表現について指導する。	・前時使用した名詞・形容詞カードは黒板わきに貼っておく。						
7	Activities ①ALTの住む町の改善点についてHRTと対話するのを聞き、本時の課題をつかむ。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; padding: 5px;">HRT: What do you think of Mizunami?</td> <td style="width:50%; padding: 5px;">ALT: It's clean and comfortable. But we don't have a baseball stadium. I like baseball. Now we can not watch professional baseball games. So I want a baseball stadium in Kasahara.</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">HRT: I see. We have a baseball stadium in Nagoya. But Nagoya is a little far.</td> <td style="padding: 5px;">ALT: Yes. What do you think?</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">HRT: I like baseball, too. I want to watch baseball games.</td> <td></td> </tr> </table>	HRT: What do you think of Mizunami?	ALT: It's clean and comfortable. But we don't have a baseball stadium. I like baseball. Now we can not watch professional baseball games. So I want a baseball stadium in Kasahara.	HRT: I see. We have a baseball stadium in Nagoya. But Nagoya is a little far.	ALT: Yes. What do you think?	HRT: I like baseball, too. I want to watch baseball games.		○listenerの立場で、聞き方の手本を示す。 ○前時(We have~)とつなげながら、本時の基本表現(We don't have~)を導入する。 ○交流中は、本時の基本表現への抵抗があると思われる児童に寄り添い、一緒に発話して指導援助する。 ○中間の高め合いの場1では、本時の基本表現(We don't have ~ in Kasahara.や I want ~)を指導する。 ○交流2では、全体を机間指導し、基本表現の使用の度合いを確認する。 ○中間の高め合いの場2では、What do you think of Kasahara?の質問に対し、It's bad(not good).という反応ではどんな感じがするかを考えることで、いきなり全てを否定するのではなく、前時で考えたような町のよさを述べてから、But...というようにあったらよいものについて述べる話し方のよさを共有する。 ・英文を書くことへの慣れ親しみが目的なので、単語のまとまりが分かりづらかったり、4線からずれていたりしても訂正せず、書こうとする意欲を大切にする。 ・本時のねらいが達成できたかどうか、児童の相互評価を見届ける。	○speakerの立場で、自分の住む町にあったらいいものとその理由について話し、手本を示す。 ○交流中は、児童の活動の中に入り、英語表現が使えているかを確認する。 ○中間の高め合いの場1では、あったらいいもの説明に使いそうな建物や場所の言い方、言いたくても言えなかった表現を拾い上げ、指導する。 ○交流2では、児童の活動の中に入り、基本となる表現を正しく話せるように助言したり、よりよい英語表現を教えたりする。 ○中間の高め合いの場2では、基本表現の定着が不十分な場合には再度練習する。	<中間指導> ・基本表現 We don't have ~ in Kasahara./ I want ~. (黒板掲示用) ・あったらいいもの説明する時に使える名詞・形容詞カード (黒板掲示用)
HRT: What do you think of Mizunami?	ALT: It's clean and comfortable. But we don't have a baseball stadium. I like baseball. Now we can not watch professional baseball games. So I want a baseball stadium in Kasahara.									
HRT: I see. We have a baseball stadium in Nagoya. But Nagoya is a little far.	ALT: Yes. What do you think?									
HRT: I like baseball, too. I want to watch baseball games.										
2	笠原町にあったらいいものものを交流し、未来の町を考えるヒントをつかもう。									
1	②どんな表現を用いて話せそうか見通しをもつ。 ③交流1 ペアで対話する。(1分×1回)									
5	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; padding: 5px;">C1: What do you think of Kasahara?</td> <td style="width:50%; padding: 5px;">C2: It's beautiful. But we don't have many parks. We cannot play soccer.</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">C1: I see.</td> <td style="padding: 5px;">C2: What do you think of Kasahara?</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">C1: It's fun. But we don't have big shopping mall. We can not buy games.</td> <td style="padding: 5px;">C2: That's too bad.</td> </tr> </table>	C1: What do you think of Kasahara?	C2: It's beautiful. But we don't have many parks. We cannot play soccer.	C1: I see.	C2: What do you think of Kasahara?	C1: It's fun. But we don't have big shopping mall. We can not buy games.	C2: That's too bad.			
C1: What do you think of Kasahara?	C2: It's beautiful. But we don't have many parks. We cannot play soccer.									
C1: I see.	C2: What do you think of Kasahara?									
C1: It's fun. But we don't have big shopping mall. We can not buy games.	C2: That's too bad.									
3	④中間の高め合いの場1 基本表現(We don't have ~ in Kasahara.や I want~.)について確認したり、言いたい表現を知ったりする。									
4	⑤交流2 相手を替えてペアでの対話を再度行う。(1分×2回) ⑥中間の高め合いの場2 実態に応じて基本表現を確認する。また、言いたい表現や簡単によさを述べてからあったらいいものものを話す話し方を知る。									
3	⑦交流3 相手を替えてペアの対話を再度行う。(1分×2回) ⑧本時学んだ基本表現を用いて、ワークシートに英語で書く。 We don't have a big shopping mall in Kasahara.									
2	⑨チェックタイム 新しく示された「あったらいいもの」について、本時の基本表現を用いて2文以上で説明できるかペアで聞き合う。 ⑩チャレンジタイム 本時の対話を成果として学級の前で発表する。									
4	Comments ○本時の振り返りをする。 ○HRT・ALTのコメントを聞く。									
1	Greeting ○Thank you, Bob sensei.	○本時の基本表現の定着や知っている表現を用いて積極的に対話していた児童の姿を価値付ける。	○児童が話していた英語や内容についてコメントする。	<書く活動> ・文字プリント ・ワークシート						
		【評価規準】 ・基本となる言語材料を用いて、笠原町についての思いを正しく問答することができる。(表現・正確さ)								